

## 原田会長を再選

県地方史研究会総会

県内各地の史談会などでつくる県地方史研究会は、22日、長崎市内で総会を開き、原田博二会長(長崎史談会会長)を再選した。このほか、本年度の秋の研究発表会を中止することなどを決めた。同研究会は14団体、会員292人が加入。

(高比良由紀)

その他の役員は次の通り。  
(敬称略)

▽副会長 中島眞澄(佐世保)  
▽常任理事 小嶺昭典(長崎) 古賀力(諫早) 氏福裕隆(大村) 松尾卓次(島原) 木田昌宏(平戸)

## 往 来

天草史談会代表

鶴田文史さん(78)



熊本・天草市を拠点に

「キリシタン史」と「義民流人史」を長年、研究する。21日に長崎市で開かれた「長崎学公開講座」(長崎史談会主催)、22日の県地方史研究会研究発表会で、二つのテーマをそれぞれ講演した。

高校の日本史教諭の傍

ら、半世紀近く天草の歴史を調査研究。明治期に長崎を旅した歌人の与謝野鉄幹ら5人の足取りを追った「西海の南蛮文化探訪『五足の靴』」など40冊の著作がある。その原点は「天草・島原の乱(1637〜38年)。「天草の歴史 民衆視点で」

草の農民史とキリシタンの深い関わりに魅せられ、ずっと追いかけてきた」

22日の講演は「西海の天草キリシタン宗門史」。江戸時代の禁教下、天草のキリシタンの多くが仏教に転向した背景や「踏み絵」の実施状況などを解説。「日本の西の海に面する『西海』という視点で五島、長崎、口之津、島原といった地理的な広がりと、時代的なつながりの中で、天草のキリシタンを考えないといけない」

「義民流人」については今年、「西海義民流人衆史」(長崎文献社)を刊行。一揆などの責めで流人となった「義民流人」の存在に光を当てた。地域を中心に民衆の視点を組み込み、歴史を見ていくことが大切。今後は天草のキリシタン近世復活史をまとめた」と意欲を語った。

(高比良由紀)